

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(1階ささやきの小径)(2階さえずりの小径)

事業所番号	2773201187		
法人名	有限会社リアル・ケアサービス		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	大阪府守口市北斗町10番1号		
自己評価作成日	令和2年7月25日	評価結果市町村受理日	令和2年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和2年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○地域の災害時対策会議に参加させていただき、当ホームの入居者様の身体・精神・社会的側面についてお話しさせていただきました。災害時には、地域の方々の一時的避難場所として当ホームを解放するなど協力し合えるような体制構築を行うこととなりました。また今後も会議に参加することで共助していけるよう努めます。
 ○「認知症啓発イベントらんらん」に協賛参加し、当ホームを多くの人に知ってもらうことができました。地域の老人会の方々がボランティアとして当ホームに来て下さり共に参加することが出来ました。
 ○入居者様1人1人の介護方針を常にケース担当・ご家族様・医師・看護師と共に話し合い、入居者様・ご家族様の思いに寄り添い、安心して穏やかに生活していただけるよう支援させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、きめ細かな介護に取り組み法人の理念を十分に体现している。管理者と職員は、法人役員の支援も得ながら責務を果たし、互いに気遣い信頼し合う関係を構築している。職場は利用者・職員共によく笑う楽しい場であり、介護内容も全職員一致のぶれない介護を目指している。利用者・家族の満足度は高い。法人の理念にも謳われた「地元の人々との係わりを大切に」する姿勢はよく実践され、自治会の要請で地域住民に向けて認知症の事や事業所の事(認知症対応施設としての具体的内容)を説明したり、地域老人会とのやりとりの実現など事業所の力を生かした地域との堅固な結びつきが伺われる。又、自治会主催の災害時対策会議にも事業所として出席し、利用者の現状などを伝えて災害時に備え、地域住民の災害時一時避難所として事業所を提供することも諮られた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念に地域密着を謳っている。また入職時のオリエンテーションでは、本部より介護理念・組織体制について説明し、文章も配布している。職員の自覚を促す為、会議等も理念に基づいて行っている。また介護現場で介護方針等に迷った場合はスタッフと入居者の情報や事業所の理念を共有し事業所理念に基づいた答えを導き出し実践している。	法人の理念はパンフレットに掲載され、施設運営方針などと併せて法人のHPにも掲げられている。管理者は理念を拠り所とした介護を大切にしており、理念は又介護現場における職員の様々な話し合いや決断の場での重要な典拠ともなっている。理念が管理者及び職員によって血肉化され事業所の根幹を形成し明快で充実した介護を生んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	買い物・散歩等、地域を利用している。当ホームの行事等にも、地域に声をかけさせていただき参加していただくことが出来た。また地域の行事にも招待していただいて交流を深めることができた。	事業所は自治会に所属し、運営推進会議も含め地域との連携が密である。自治会主催の春祭りには、利用者全員が参加して楽しみ、事業所自身もぜんざいコーナーを担当している。音楽療法ボランティアの訪問もあり、利用者は懐かしい歌を楽しんでいる。事業所主催の運動会は家族と地域の参加を得て楽しく行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会や行事毎に当ホームの理念を説明させていただき、認知症の方への理解をいただいている。自治会長より認知症について地域住民の方へお話しする機会を設けていただき、認知症について知っていただくことが出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の運営推進委員会において、事業報告を行っている。知見の有する方より貴重な意見をいただけた。地域の災害時対策会議に参加させていただき、当ホームの現状を伝え情報共有していただいた。災害時には地域の方々の一時的避難所として当ホームを解放するなど具体的な共助もしていただけたこととなった。	隔月に運営推進委員会を開き、自治会長・老人会会長・地域包括支援センター職員・社協及び他老人福祉施設関係者の出席を得ている。会議では運営の報告以外に、行事等取り組みの打ち合わせをしたり、人材確保の困難な現状を共有し人材発掘の可能性を広げる等、双方向でのやりとりが行われている。今後はこの会議録を各家族宛に郵送することを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢介護室・生活福祉課や社会福祉協議会の方々に入居者の生活面・経済面等について相談に乗っていただき、地域包括支援センターの方々には、他事業所の事例案等を教えていただいている。	介護サービス全般に関する相談や生活保護関連の相談を、市の各々の該当窓口に応じてもらっている。地域包括支援センターが開催した困難事例の研修会では、事業所が抱えていた困難事例と共通する事例に出会い、同質同程度の困難さをなぞるように確認し参考にすることができた。看護学校からの実習生も受け入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを活用し、会議の中でリスクのある方に対して拘束を行うのではなく、どのように対応すれば安全でリスクを回避できるか話し合っている。エントランスについては、一部が賃貸マンションになっている為、警察の指導を受け外部からの侵入等安全面を考慮しオートロックになっている。	指針を作成し、身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度開いている。同委員会には管理者・看護師・リーダー・職員が出席し、拘束に該当する介護について学ぶと共に、スピーチロックを始め日常つい犯してしまいそうな事項について話し合い自覚を高めている。月1回年間12回の研修計画の中に、身体拘束適正化の研修も2回盛り込んで取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活では、更衣・入浴・排泄時に内出血・傷等の観察を行い、言葉遣いに注意を払うと共に入居者への配慮・気づきも大切にしている。スタッフのメンタル面も把握できるよう気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症介護実践者研修の講習を受けた管理者が中心となり、会議等において制度の概要・必要性を具体的に学んでいる。現在利用されている方はいないが、家族からの相談の際に相談内容に応じて権利擁護について説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容において理解・納得いただけるまで十分に説明を行い、入居への不安を取り除けるよう努めている。解約については、医療的観点を重視し、かかりつけ医・看護師の意見を踏まえ家族と共に本人にとって最良となる方策を考えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に管理者・役職者が入居者・家族と情報交換を行い、気軽に意見や要望を話せ、一緒に考えていく環境を作れるように信頼関係を築いている。また家族の状況も含め運営者・管理者と共に検討会を行っている。	家族の訪問時、まず職員と話す時間をとり利用者の直近の状況の報告をし、家族の状況に変化がないかも伺っている。その後、利用者や居室などで面会をしてもらっている。家族の訪れを職員が笑顔で迎えるよう心がけ、家族の訪問が利用者にとっても職員にとっても好ましいことであると確信してもらえる雰囲気と信頼とを大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が管理者・ケアマネジャーに対し日常業務の中での個人の考え方を話せる環境を作り職員の意見を受け止めている。またスタッフ会議を開催し、意見・提案を集約して、その方策についても話し合いをもって	管理者は職員との面談を1人30分、年2回実施している。しかし、仕事の厳しさが職員に影響を及ぼすことも多いので、時を選ばず平常からよく観察し、心配な時に個人的に声かけをして話を聞く様にしている。介護の提案に関しては職員の発言は積極的で、寧ろ多数の提案のバランスをとりながら皆の納得いく結論に持ち込む力量が管理者には要求され実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員・パートにかかわらず、仕事ぶりにより昇格できる。管理職が職員と話し合いながら個々のレベルに応じて目標設定と現状における不安や悩みを聞く等、一緒に考え答えを導き出せるような場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職による、職場内研修(OJT)を充実し個人指導を行っている。スタッフ会議にて方針や統一ケアの重要性を周知し、現場では管理職が模範となり一緒に実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡会や地域のケアプランセンター・老人保健施設の管理職の方と相談・意見交換を行う場を設けネットワークづくりに努めている。また地域包括支援センターの方からも指導をいただいている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時より親身に話を伺い、対象者の方へも行政等の紹介を行っている。面接時には、本人・ご家族様との話し合いの時間をじっくりもっている。体験入居を通じて本人の思いも確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	面接時・体験入居期間において家族との面会の機会を多くもち、家族の置かれている状況・立場等を理解するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・面接時に何を必要とされているのかを把握し、ホームでの生活に馴染んでいただくことから始め、家族への説明・相談を受けながら徐々に支援していくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に入居者は人生の先輩であることを認識するよう指導している。日常生活の中でも共に行い、時に教わり、理念に掲げている様に「いつでも傍で見守り」信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から生活歴や思いを聞かせていただいている。現在行っているケアの説明、今後起こり得る状態を伝え、どの様なケアが最良かを一緒に検討している。なかなかお会い出来ない家族へは、電話や手紙を送り近況報告を行っている。毎月発行の新聞にも近況を書いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・知人が面会に来やすい環境を作っている。スタッフが配慮・気配り出来るよう周知している。スタッフと馴染みのある店へ買い物へ出かけた時、家族へ協力していただき普通だったお店等へも外出している。	面会に来てもらった方に対しては、面会がとても有難く喜ばしいことであると伝えるように心がけている。また、その配慮を職員全員が出来る様、管理者は心を砕き実現している。利用者に地域の方が多いため、地域の知り合いの方やかつての職場の方などの訪問もある。また、馴染みの美容室や食事の店へは、家族に付き添われて出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格を把握・判断し、また入居者個人からの悩み等を聞いた際には速やかに対応している。買い物やレクリエーションを通じて入居者同士が関わりあえるよう努めている。ユニット間でも行事や共同制作などを通してコミュニケーションがとれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の方は個々に退去理由もあり契約終了後の様子を伺えない状況である。郵便物が届いた際には家族へ連絡をとり郵送している。その際に退去後の様子を聞かせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と日常の会話や家族と話し合い、またケアプラン作成後のモニタリング等で把握している。ケース担当を置き本人の希望等の把握に努め会議で対応を検討している。入居者個々に応じたレクリエーション等も行っている。	利用者の思いは、家族から聞く以外に、日常的に把握しようとしている。把握した情報は複数のスタッフと共有しながら暫く様子を観察し、決定となれば申し送りノートに記入し介護計画へ盛り込むという綿密な課程を踏んでいる。又、各利用者の嗜好に応じたゲームや手作りの作業トレーニングに楽しんで取り組んでもらい有効な刺激と機能訓練と位置づけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約時、アセスメントシートに基づき、本人や家族から出来るだけ話を聞くようにしている。入居後も折に触れ、昔していた事・好きなこと・苦手なこと等情報を集めるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリング・アセスメントシートを繰り返し、現状を把握すると同時にかかりつけ医・看護師による医療的な意見も含め、トータルケアサービスが実施出来るよう努めている。また家族へも報告し確認の上、一緒に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の希望や家族の意見を取り入れ、入居者ごとの担当職員とケアマネジャーが中心となってケアプランを作成している。さらに職員全員が参加した検討会で、かかりつけ医・看護師の意見を取り入れながら作成している。	利用者・家族から聞きとったケアチェック表を元に3ヶ月に1度モニタリングを実施し、カンファレンス会議(ケアマネジャー・看護師・管理職・担当職員が出席する)で検討し、家族の要望と医師の意見を取り入れて介護計画書を作成している。これ以外にも日常の小さな改善について、複数の職員目で観察した結果を出発点とし、最終的にカンファレンス会議で決定し共有する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを綿密に行い、入居者の状況把握に努め介護計画の見直しに活かし、また申し送りノートを活用で職員の周知徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院の付き添いや送迎、早期退院の支援等に臨機応変に対応している。また家族の背景にあるものを把握し、不安や負担の軽減に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会は家族だけにかかわらず、今まで関わりのあった方も来られている。かかりつけ医も引き続き往診・受診をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の制度を啓蒙し、入居前からのかかりつけ医を利用できるように配慮している。また、かかりつけ医との連絡を密にし、往診や通院のいずれにおいても対応可能な柔軟な支援を行っている。看護師常駐している為、健康管理・医療連携が円滑で安定している。	かかりつけ医は、入居時に本人家族等と話し合って決めている。入居者全員が内科、歯科、眼科、精神科等は事業所の契約医療機関を利用している。その他の整形外科については、事業所で作成している介護・看護サマリーを家族が持参して、診療を受けている。ドクターの話を聞く必要がある時や家族の都合の悪い時は、看護師が同行して対応する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りには同席し、情報共有している。入居者の変化・気づきについても指示を受け、早期発見・受診に繋がっている。ケース会議にも出席し、連携して入居者の支援にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院へ情報提供を行い、入院中の容体や経過については病院から随時情報をいただいている。なるべく早く日常生活に戻れるよう、看護師を中心に病院と連絡を取り、家族の意向を尊重した上で話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明を行っている。病状に変化が現れた段階でかかりつけ医・看護師・管理職で相談し、家族の意向を尊重し方針を共有しながら今後の支援方法を決めている。	重度化した場合や終末期のむかえ方については、入居当初に事業所として出来る事、出来ない事を家族等に説明している。重度化した場合の介護の指針や同意書の作成をし、終末期にさしかかった際に関係者と相談した上で、都度説明をしながら方針を共有し同意書を取るようになっている。看取り経験は、過去4例ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを配備し、スタッフに周知している。看護師から随時、入居者個々の対処方法の指導を受けている。同時に実際行った急変時の処置・対応を振り返り、資質向上に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の災害対策会議に出席させていただき災害時協力していただけるようお願いしている。3階は単身者が多く訓練には参加していただけていないが、非常時の協力はいただけるよう声をかけている。スタッフには避難方法・手段を周知している。	年2回、避難訓練を利用者と共に行っている。その他に、色々な場面を想定したシミュレーション訓練を行い万全を期している。非常食・備品は、完備されている。同じビル内のマンションに居住している住民に、非常時の協力をお願いしている。しかし実訓練は、まだされていない。	同じマンションの住民に非常時の協力依頼は、かなり無理がある。夜間対応で一人体制を想定して、利用者を安全な処まで誘導した後の見守りを自治会長を通じて近隣の方をお願いした上で実訓練を行い、いざという時に混乱しないような役割分担が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職オリエンテーション時や実習受け入れのオリエンテーション時にも説明し、誓約書を書いてもらっている。また、個人情報保護方針と保護マニュアルを職員に熟知させ、管理職が模範となって対応している。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、目立たずさりげない目線を合わせての、言葉掛けや介助を行っている。個人ファイルも事務所の書庫に施錠して保管されている。接遇やプライバシーの保護についての研修も3月、9月と定期的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	禁忌である言葉や態度は避けるよう全職員に周知徹底させている。自己決定しやすい声掛けや言葉をうまく表現できない方にもハイ・イエエで応えられるような声掛けを行い、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の日常生活のリズムを把握した上で、必ず本人に意思確認を行ってから何事も行うようにしている。また入居者が達成感や喜びを感じられ、継続して行えることを一緒に考えながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室へ行かれたり、毎日の整容・髭剃りはもちろん、出来ない方へは支援を行っている。また家族に協力してもらい、その人らしい身だしなみが出来るように努めている。入浴の際、着替える服を選択していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・片付け等、入居者の「できること」を行ってもらっている。食事中には職員が入居者と話をしながら嗜好を知ったり、入居者のリクエストに応じて行事の時の食事に活用している。	食材業者の食材をバランスを考え、アレンジして提供している。利用者の健康を考えて、口腔体操や口腔ケアは毎日行っている。食事を職員は利用者と共にして、会話の中から好みや味付けなど色々な情報を得ている。月に一度は利用者の好みを聞いて、行事食やおやつ作りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は食材業者の管理栄養士に依頼している。一日の水分量が確保できるよう工夫し、食事量と共にチェックし記録している。個々の食事形態に配慮し摂取しにくい場合は、器や箸・フォーク等の変更を行い咀嚼・嚥下状態により食事形態を変更するなど支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人の能力に応じて口腔ケアを行い口腔状態の把握・清潔保持に努めている。また入居者のその時の状態に応じ、歯科往診にて口腔内チェックや義歯調整等を行ってもらっている。食事中も食べ方をチェックし不具合ありそうなら歯科医師へ連絡する。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位をとれている方にはトイレ誘導を行い介助している。一人一人の排泄パターンを掴み、誘導・声掛けに配慮している。失禁回数が軽減しリハビリパンツから布パンツへの変更を検討中の方もおられる。また排泄中は自尊心を傷つけないよう配慮している。	一人ひとりの排泄チェック表や利用者独自のサインにより排泄パターンを把握し、一覧表にまとめ活用している。夜間は担当の職員が3時間毎に見回り、チェックをしながら出来るだけ睡眠の妨げにならないように、注意をしながら誘導を行い、自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間のみポーターブルトイレを利用している利用者は2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分量をチェックし水分補給に努めている。食物繊維を摂取できるよう、食べやすい柔らかさと切り方に配慮し調理している。また適度な運動・ホットパック・マッサージも行っている。頑固な場合は、看護師・かかかりつけ医に相談する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の目安は個人ごとに決まっているが、本人の意思の確認を大切に無理強いを行わないが、衛生面等を考慮して声掛けを行っている。また体調や疾患にも配慮し、その都度看護師の指示を仰ぎ支援している。	入浴は週2回、午前中としている。曜日は固定せず、何時でも入れるよう一人ひとりの習慣やその日の体調の変化を配慮しながら、個々にそった支援をしている。入浴剤やゆず湯や菖蒲湯など、季節の湯にも取り組んでいる。入浴を拒否する利用者には、タイミングに合わせて無理強いせず、会話の中でうまく誘導するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを重視し、休息していただいている。体調や下肢の浮腫がある方には休息してもらう様に配慮している。休息中や夜間時は安否確認を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方一覧を個人ファイルに挿んでいる。受診・往診時の内容や医師の指示は受診記録に記載して、かかりつけ医・看護師・家族に連絡を行っている。新たに服用し始めた薬については、申し送りで周知し変化も記録に残し報告する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々に「出来ること」が異なる為、一人一人にあった役割を提供し、出来た時の喜び・達成感を得られるように支援している。(全体レクリエーション・個別レクリエーション)また、家族からも情報を聞き参考にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は、散歩や買い物へ行く日を設け体調に合わせて付き添いを行っている。ADL状況や体調により玄関先までの時もあるが外の空気を感じていただいている。	利用者一人ひとりのその日の希望や体力に添って、事業所の周辺や近所の公園、スーパーなどへ家族の協力も得ながら出かけている。また、時には花見に、近隣の施設へ出かけた時もある。利用者の体調によっては、外へ出て外気に触れるだけの時もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に家族と相談し、手元になれば心配な方には持っていただいている。管理が出来ない方は事務所で預かり保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話をしたいと希望された場合は、当ホームの電話を使用していただいている。希望により携帯電話の所持も可能。文字を書く事ができる方には、息子様やお孫さまの誕生日等記念日に手紙や絵をかいいただき郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階は季節の花や野菜を植えた中庭が見えるリビングに囲炉裏を配置し、昔の玩具を揃え幼少期を思い出していただけるよう配慮している。2階の玄関前には、坪庭を造り、心和む空間づくりに取り組んでいる。光や音等も状況により調整を行っている。	ゆったりした大きな窓ガラスのあるリビングルームや囲炉裏のある畳の間では、利用者それぞれがテレビを見たり、仲間同士が話し合ったりして、くつろいでいる人もいる。それぞれのユニットに空間を活かした中庭や坪庭があり、昔の玩具、季節の展示品ひまわりや花火の利用者と職員の共同作業で作成した貼り絵など、楽しみの空間の工夫が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	囲炉裏の畳部分で自由に寛いでいただいている。玄関先には応接セットを設け、各々落ち着く場所で気の合う方同士で過ごしてもらっている。友人が来られた際も利用されている。季節感を感じていただける作品を入居者と作成し飾っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に使い慣れた家具や大切にされていた品を持ってきていただくよう説明させていただいている。本人が自分の家であると認識できるようタンスやソファ・思い出の写真等思い思いに持ち込まれている。	広くゆったりした居室で、洗面台とクローゼット、トイレがある。利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、今までの生活習慣に合わせて、自由に配置するなど、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。部屋の表示に名前の他、動物や花の絵があり、見当識支援の工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の「出来ること」「わかる事」や介助方法・声掛け・生活面での注意点等カンファレンスを行い、職員間での情報共有に努めている。また手すりに頼らず本人のADL・意思にも配慮し援助を行っている。歩行不安定な方への対応として、自尊心を傷つけない様に、スタッフがさりげなく付き添わせていただけるように座席の配置等を考慮している。		